教育コラム「愛のかけはし」：２０２号

平成３０年　８月
江差町教育委員会
学校教育課

『憧れ』

夏が来ると、私はあるシーンを思い出します。夏祭りの夜、Ｔおじさんが、私の実家に訪れた時の光景です。私が、小学２年生の頃と記憶しています。

Ｔおじさんが、どういう経緯で、その夜、私の実家に来ることになったのかは全くわかりませんが、私を“祭り見物”に誘うことが目的の一つだったということは確かだと思っています。

Ｔおじさんは、海上自衛隊の士官でした。そのことは、私を育ててくれた祖父母から教えてもらっていました。そして、「今夜、Ｔおじさんが来るよ」と言うことも聞かされていたと思います。私は、まだ顔も見たこともないＴおじさんの訪問をワクワクしながら心待ちにしていました。

「こんばんは」と、ついにＴおじさんがやって来ました。玄関に立つＴおじさんの姿を見た時、大げさな表現ですが、全身に電気が走りました。

私の眼の中に、海上自衛隊の真っ白なパリッとした制服が飛びこんできました。Ｔおじさんの体型はスリムで、少し日に焼けており、精悍な顔つきをしていました。優しい目をしていましたが、鋭さも宿していました。声もいい声で、時折見せる笑顔がとても素敵でした。

夜ですから、Ｔおじさんの背景は黒っぽいです。ただでさえ制服の白さが鮮やかなのに、背景の黒との対比で、その白さはより際立っていました。

「かっこいい！」私は、この言葉しか出てきませんでした。そして、Ｔおじさんに会った瞬間から、「僕もあんな制服を着て仕事がしたい！」という憧れを抱きました。こんな気持ちは初めてでした。（とても悲しいことに、Ｔおじさんは、その後若くしてガンで亡くなりました）

以来、中学２年の途中まで、私は、「防衛大に進み、やがては護衛艦の艦長になるんだ」という夢を持ち続けました。防大生は、授業料もかからないし、国家公務員待遇で給料（学生手当等）も頂けると聞いていましたので、家の経済事情から考えても、願ってもない進路でした。

でも、冷静に自分の状況を分析すると、この夢の実現は、かなり困難だという結論に至りました。決定的な理由は、水泳が苦手なこと。「そのくらい、やろうと思えば何とかなるでしょ」と思われるかもしれませんが、私としては一番の弱点であり、そもそも「水」が怖いのです。「相当きつい訓練が待ち受けているのだろうが、それは頑張れる。しかし、

水泳だけは、駄目だ」小学２年から抱き続けた夢は破れました。そして、自分の限界を知った瞬間でした。ここからは、憧れや夢というよりも、自立のための将来の目標という言い方に変わっていきます。

祖母からは、「学校の先生になりなさい」と、小さい頃からよく言われていましたが、そういう気持ちには、なかなかなれませんでした。上述のように、「護衛艦の艦長」になることが夢でしたから。

しかし、中学時代に出会った魅力的な先生方の生き様や時折語られるお話から、加えて、当時流行っていた青春学園ドラマを見て、「学校の先生もいいもんだな」と思うようになり、中学３年時早々には、「将来は、教師になる！」と決めていました。そして、中２の時の担任の先生や中３の時の社会の先生の影響から、「中学校の社会科の教師になる」という具体的な目標が定まりました。

ここまでくると、残る問題は、「どの大学を受けるか」に絞られました。姉が、東京で大学の先生をしていたので、そして、兄の一人が、東京の私大を出ていたので、東京に何となく憧れを抱いていました。東京教育大（現在の筑波大の前身）や東京学芸大という名前がちらつきました。今思えば、見栄に近いものが多少あったのだろうと思います。志望大学の選択は、高３の夏まで揺れました。結局、自分の実力を客観的に判断し（家の経済事情もありましたが）、地元の教員養成大学のみを受験することに決めました。

「地元の大学だったら、何とかなるのでは」という考えがあったのだと思います。それなりに受験勉強は頑張ったつもりでしたが、きっと甘さがあったのでしょう。中３の時に持った「中学校社会の教師になる」という目標は実現できませんでした。畑違いのコースではありましたが、第３希望で何とか合格していましたので、「そこで頑張るしかない」と気持を切り替えました。国公立文系でしたので、「理科、好きだったっけ？」と言われると、少々傷つきましたが、「学校の先生になれればいい」と開き直って、冷や汗をかきながらも何とか卒業できました。運良く、教員採用試験も横浜市と北海道で合格できました。

紆余曲折はありましたが、中学の時に定めた「教師になる」という目標は叶えたことになります。やりたい職業に就けたということは、幸せなことだなと思っています。

何がきっかけで、「いいな！」「やってみたい！」と感じるのかはわかりませんが、誰でも、必ず“心がぐっと動く瞬間”があると思います。その瞬間を大事にして欲しいなと思います。今は、選択肢が多すぎて、何が自分に合っているのか、あるいは、自分が何をしたいのかを見極めることがかなり難しい時代だと感じています。そういう意味でも、進む道を選ぶ時に、それまでに感じた“ぐっと心が動いた瞬間”は、判断材料の一つとして良いのではと思っています。